
小山ひとき展「往還する光 - Möbius Passage - 」1月20日から開催！
手作業のオルタナティブ写真技法による新作展示
- 東京・JINEN GALLERY -



《Solaris Lux#38 遠くの島と No.1》803×1000mm, Gelatin silver print, synthetic urushi, gold brass powder, Unique, 2025

【開催日時】

日程: 2026年1月20日(火)～2月1日(日)

開催時間: 13:00～19:00 ※金曜日20:00迄／最終日16:00迄 会期中無休・入場無料

※作家在廊日 1月30日(金)1月31日(土)2月1日(日)

【会場】JINEN GALLERY

東京都中央区日本橋堀留町1-8-9 渡菊ビル新館6階

＜アクセス＞

GoogleMap <https://maps.app.goo.gl/mP4rQWmrUQipZggm9>

東京メトロ日比谷線: 人形町駅から徒歩3分／小伝馬町駅から徒歩6分

【展示概要】

本展では、新作・旧作を含めたおよそ25点を展示販売します。「記憶」と「唯一性」をテーマに制作を続ける小山は、2022年から独学で暗室での制作を開始。手作業のオルタナティブ写真技法を軸に、生命の痕跡や世界のかたちを可視化することを試みています。インクや絵の具を用いず、主に印画紙に物をおいて感光させる技法(フォトグラム)により再現不可能な唯一の作品を制作しています。作品の一部は、太陽光で印画紙を直接焼き焦がし定着させる独自のアナログプロセスによって制作され、光そのものを多層的に記録しています。

【展示についてコメント】

2025年、二冊の本と出会いました。その出会いをきっかけに、瞼の裏にひとつの景色が生まれました。大きな循環のようなものを、光で描きたいと願っています。1年ぶり4回目の東京個展です。お時間がいただけましたら、ぜひご高覧ください。



《Solaris Lux#28 花鳥星 No.1》193×244mm, Gelatin silver print, synthetic urushi, gold brass powder, Unique, 2025



(左)《Galactic Pages#5 星座の記憶を持つ樹木 No.3》193×244mm, Gelatin silver print, synthetic urushi, gold brass powder, Unique, 2025

(右)《Crystal Photographs#20-1 星の器 No.1》508×610mm, Gelatin silver print, Unique, 2024

【メディア掲載用】画像ダウンロードURL

<https://drive.google.com/drive/folders/1wVwryOhqGxtcNso5EOCsD2R9yJ4Vlt8X?usp=sharing>

CVダウンロード(PDF)

<https://drive.google.com/file/d/1utbYsAC3nFUjLhVSNs1OzsDFkwM9Aq7T/view>

Statement

「記憶」と「唯一性」を主題に、暗室で光と化学変化を用いた作品を制作。手作業によるオルタナティブ写真技法を軸に、生命の痕跡や世界のかたちを可視化することを試みている。

人の記憶はレイヤー構造だと思う。今、この瞬間も過去の出来事が層のように積み重なり、記憶となって唯一無二の私たちを形作っていく。制作では主にフォトグラムという技法を用いて、自分の記憶と光を重ね合わせる。そのとき、私の記憶と物質そのものの記憶が響き合い、時間や生物の種類を超えた、細胞の拡大図や宇宙のような姿が浮かび上がる。

幼いころ、いつもそばにいてくれたのは父方の祖母で、私は完全なおばあちゃん子だった。2024年に100歳で大往生した祖母はいろいろなことを教えてくれた。

「お米の中には神様が宿つとる。1粒も残さずにたべなあかん。」

「もち米には7人神様がおる。」

「ものにはみんな魂がある。大事にしな。」

葬儀のときに知ったのだが、実家は禅宗であった。仏教には「空(くう)」という思想がある。それは自分自身を含むすべてが、境界なく溶け込んでいるという考え方だと私は思う。不思議と寂しさではなく“わかる”気がした。暗室で感じる感覚にも似たようなものがある。

生きるあなたも、死にゆく私も、同じ命の循環の中にあると知るとき、耐え難い悲しみさえも解き放たれていくように感じられる。暗室で生まれるイメージは、偶然と必然が織りなす生命の痕跡だ。それは「生きていていい」という安らぎを静かに伝えてくれる。誰かの“生”が否定されることのないように、私は光によってその姿を残し続けたい。

小山ひとき

作家略歴

小山ひとき Hitoki Koyama

<https://hitokikoyama.com>

略歴

1981年 岐阜県生まれ
2013年 フィルム写真を撮りはじめる
2022年 暗室で制作開始

個展

2025「いのちの光 -Light of Life-」いとなギャラリー、東京
2025「光を放つもの -biophoton-」JINEN GALLERY、東京
2024「星渡りたち」田口美術、岐阜
2023「結晶写真」DOUBLE TALL ART & ESPRESSO BAR、東京
2021「発露の方角」名古屋栄三越、愛知
2017「架空のセルフポートレート」Gallery40、愛知

グループ展

2025「Dreams and Imagined Realities」PhotoPlace Gallery、アメリカ
2024「スイカ美術展」HRDファインアート、京都
2023 京都国際写真祭2023 KG+「JAPAN PHOTO AWARD Vol.10 + INTUITION」HOTEL ANTEROOM KYOTO Gallery 9.5、京都

主な委託展示、販売

2025「OSAKA ART FES 2025 HANSHIN」阪神梅田本店、大阪
2025「余白のアートフェア / MARGINAL ART FAIR 福島広野」招待作家、福島
2023 バルセロナ国際アートフェア「FIABCN」Museu Marítim de Barcelona、スペイン
2023 「I Never Read, Art Book Fair Basel」Japan Photo Award出品書籍に掲載、スイス
2021「三越美術特選会」名古屋栄三越、愛知

【お問合わせ】HK Exhibition事務局 広報担当:佐藤 E-mail:contact@hitokikoyama.com 電話:080-4860-4797